

研究業績一覧 (2016年)

秋山 憲治 (アキヤマ ケンジ)

1 論文

- 「カンボジアの経済発展—現状と課題—」 神奈川大学経済学会『商経論叢』第51巻第4号、2016年7月、1-12頁
- 「西部大開発とチベット地方の水問題」(研究ノート) アジア研究センター年報2015-2016『神奈川大学アジア・レビュー』Vol. 3、2016年3月31日、108-118頁

2 学会関係

- (コメント) 金日植「フィリピンの CEBU に進出した韓国商工人に対する実態調査」アジア市場経済学会第20回全国大会、2016年6月26日
- (コメント) 鈴木清巳報告「TTIP と日本」日本貿易学会第56回全国大会、2016年5月29日

3 その他

- (研究会報告)「視察報告：長江・三峡ダムの現状と課題」神奈川大学アジア研究センター、2016年12月10日
- (講演)「TPP 交渉と今後の行方」愛知大学経営総合科学研究所、2016年11月30日
- (セミナー報告)「チベット高原の水問題と西部大開発」韓国・済州ハンラ大学、2016年9月5日
- (研究会報告)「チベット高原の水問題」神奈川大学アジア研究センター、2016年7月22日
- (講演)「アセアン経済共同体 (AEC) とカンボジアの経済発展」城西大学、2016年6月1日
- (セミナー報告)「神奈川大学アジア研究センターの研究課題とアジアの水問題」上海師範大学、2016年3月14日
- (自著紹介)『*Rebirth of the Silk Road and a New Era for Eurasia*』アジア研究センター年報2015-2016『神奈川大学アジア・レビュー』Vol. 3、2016年3月、160-162頁
- (書評)『アジア経済史：研究入門』アジア研究センター年報2015-2016『神奈川大学アジア・レビュー』Vol. 3、2016年3月、167-168頁

飯塚 信夫（イイツカ ノブオ）

1 論文

「GDP 推計の課題と基準改定」『JOYOARC』12月号、pp. 4 - 9、2016年12月、常陽地域研究センター

「実態を把握できない 訪日客の「爆買い」」『週刊東洋経済』2016年12月3日号、p. 27、東洋経済新報社

「ICT 化の進展が企業の業績と雇用に及ぼす影響の実証研究－企業の ICT 利活用状況に関するアンケート調査に基づくロジット・モデル分析」『InfoCom Review』67号、pp. 17 - 33、2016年7月、情報通信総合研究所（共著、査読あり）

「GDP 速報改定の特徴と、推計が抱える問題点について」*InfoCom Economic Study Discussion Paper Series*、No. 5、2016年5月、情報通信総合研究所

2 学会発表

「GDP 速報改定の特徴と、推計が抱える問題点について」

経済統計学会第60回全国研究大会（鹿児島大学）、2016年9月11日

日本経済学会2016年秋季大会（早稲田大学）、2016年9月10日

第23回関西計量経済学研究会（東京大学）2016年1月9日

「経済予測専門家の月次予測集計からわかったこと Part 2」

2016年度統計関連学会連合大会（金沢大学）、2016年9月5日

「川崎「内閣支持率と株価の因果関係」へのコメント」

第33回応用時系列研究会・研究報告会（立教大学）、2016年7月2日

「久保田・篠崎「対米サービス貿易拡大要因の構造分析」へのコメント」

日本経済学会2016年春季大会（名古屋大学）、2016年6月18日

3 講演等

「経済・金融統計の見方」、平成28年度統計研修課程・本科（118期）、総務省統計研修所、2016年11月18日

「GDP 推計の課題と基準改定」、みずほ証券、2016年10月24日

「経済指標の読み方（全2回）」、東京財団、2016年10月7日、21日

「2016年 日本と宮崎県経済の見取り図」、宮崎日経懇話会、2016年1月22日

4 その他

産労総合研究所『賃金事情』における以下の連載

「人事に役立つ経済データの読み方」

- 長期金利が再びプラスに（2016年12月20日号）
- 消費の現場、どうなっている？（2016年11月20日号）
- 住宅着工戸数、好調いつまで？（2016年10月20日号）
- どこまで進む？円高ドル安（2016年9月20日号）
- 企業マインドの変化、月次で把握（2016年8月5日・20日号）

- 地域間格差、実は広がっていない？（2016年7月20日号）
- 日銀版個人消費指数、なぜ登場？（2016年6月20日号）
- 足踏み続く景気、先行きは？（2016年5月20日号）
- 企業収益に陰り、その要因は？（2016年4月20日号）
- マイナス金利政策、その実態は？（2016年3月20日号）
- 日本の財政赤字の現状は？（2016年2月20日号）
- 内訳が大きく変わった GDP 確報（2016年1月5日・20日号）

国際経済交流財団『Japan Spotlight』における以下の連載

「Economic Indicators for Japan」

- Production Activities-When is the Bottoming-Out？（2016年11／12月号）
- Is Japan Heading Towards Deflation Again？（2016年9／10月号）

出雲 雅志（イズモ マサシ）

1 研究論文

「John Ruskin in early 20th century Japan：some episodes」神奈川大学『商経論叢』第51巻4号、13－23、2016年7月

浦上 拓也（ウラガミ タクヤ）

1 講演

「食品メーカーのデュアル・ブランド戦略－NB and/or PB－」CGC（シジシージャパン）カテゴリーマネジメント研究会（電設年金会館、東京新宿区）、2016年1月22日

兼子 良夫（カネコ ヨシオ）

1 研究論文

「個人住民税制度改革の説得と配当所得」『説得交渉学研究』第8巻、pp.69－81、日本説得交渉学会、2016年（黒田克裕氏との共著）

2 学会報告

「法人事業税制度改革についての研究—外形標準課税の課税対象の拡大に向けて—」日本説得交渉学会第9回研究大会、東京富士大学、2016年10月8日（神谷繁幸氏との共著）

1 学術論文

児玉謙太郎・安田和弘・園田耕平・青山慶・樋口貴広「知覚と行為の乖離の実験的構成：下肢加重による跨ぎ越え課題での検討」『認知科学』accepted、2016年10月

K.Kodama, Y.Kikuchi & H.Yamagiwa, "Whole-body coordination skill for dynamic balancing on a slackline", Post-proceedings of Second International Workshop on Skill Science, New Frontiers in Artificial Intelligence, *Springer*, in press.

2 学会発表

松井博史・王中澤・児玉謙太郎・末崎裕康・椎野睦「組織・人間関係をデータにより可視化していく上での（ビジネス）データ活用のポイント」、余暇ツーリズム学会心理部会、2016年12月4日
王中澤・児玉謙太郎・末崎裕康・小林剛士・青木幸大・松井博史・椎野睦「ヒューマンセンシング機器等によるストレス関連指標の妥当性と今後の展望」、余暇ツーリズム学会心理部会、2016年12月4日

小林翔・児玉謙太郎・末崎裕康・本田海人・王中澤・松井博史・椎野睦「ヒューマンセンシング機器等の活用による高ストレス者早期発見等のメンタルヘルスケア高度化の可能性検証」、余暇ツーリズム学会心理部会、2016年12月4日

K.Kodama, K.Yasuda & K.Sonoda, "Adaptive Behavior Observed in Stepping-Over An Obstacle", *Proceedings of Third International Workshop on Skill Science*, pp.28-29, 2016年11月

K.Kodama, R.Makino, H.Masaki & K.Abe, "Effects of Auditory Information on Inter-Limb Coordination and Synchronization between People in Janken Action", *Proceedings of The Eighth International Conference on Collaboration Technologies CollabTech2016*, pp.24-47, 2016年9月

児玉謙太郎・牧野遼作・末崎裕康・阿部廣二「じゃんけん行為における身体動作の非線形手法による分析」、電子情報通信学会技術研究報告、116 (217)、pp. 29-34、2016年9月

児玉謙太郎・牧野遼作・末崎裕康・阿部廣二「相互行為における身体同期・協調のメカニズム：じゃんけん課題における検討」、第38回社会言語科学学会研究大会論文集、pp. 176-179、2016年9月

児玉謙太郎・安田和弘・園田耕平「跨ぎ越え動作のダイナミクス：障害物の高さによる跨ぎ越えパターンの変化」、日本認知科学会第33回大会発表論文集、pp. 709-713、2016年9月

児玉謙太郎・安田和弘・園田耕平「生態学的／力学系アプローチによる身体-環境システムの障害物回避行動モデル」、LIFE2016大会発表論文集、pp. 1-4、2016年9月

K.Kodama, Y.Kikuchi & H.Yamagiwa, "Relation between bimanual coordination and whole-body balancing on a slackline", *Proceedings of the 38th Annual Conference of the Cognitive Science Society*, pp. 794-799, 2016年8月

K.Kodama, H.Yamagiwa & Y.Kikuchi, "Improving dynamic embodied adaptability: A pilot study on slackline balance training", *Proceedings of 1st International Symposium on Embodied-Brain Systems Science*, p.41, 2016年5月

児玉謙太郎・菊池雄介・山際英男「全身協調バランス・スポーツ“スラックライン”の身体技能：両手協調の観点から」、2016年度人工知能学会全国大会（第30回）論文集、1M3-1、2016年

6 月

児玉謙太郎・菊池雄介・山際英男「全身協調バランス・スポーツ“スラックライン”の身体技能：経験知に基づく仮説生成とその検証」、第22回身体知研究会予稿集、pp. 1 - 5、2016年 3 月

3 研究助成

「Relation between bimanual coordination and whole-body balancing on a slackline」日本科学協会 平成28年度（第2期）海外発表促進助成金（研究代表者）

「非制御多様体解析による跨ぎ越え動作の下肢協調性の定量評価」公益財団法人住友電工グループ 社会貢献基金学術・研究助成（研究代表者）

「耳からの知識獲得 otopedia の研究の発展」平成28年度国立情報学研究所共同研究（共同研究者、研究代表者：佐藤健教授）

4 その他

【レクチャー】

「跨ぎ越え動作における知覚と行為の乖離現象—環境適応を促すためのリハビリテーションへの示唆—」リハビリテーション・ロジカルシンキング研究会（東京支部）、2016年 6 月26日・東京

【研修におけるポスター発表】

K.Kodama, H.Yamagiwa & Y.Kikuchi, "How to apply nonlinear methods to assess dynamic postural balance ability: effects of slackline balance training", in Nonlinear Methods for Psychological Science, Advanced Training Institutes of American Psychological Association, 2016.

K.Kodama, Y.Kikuchi & H.Yamagiwa, "How to apply nonlinear methods to describe whole-body coordination: skills for dynamic balancing in slacklining", in Nonlinear Methods for Psychological Science, Advanced Training Institutes of American Psychological Association, 2016.

五嶋 陽子（ゴトウ ヨウコ）

1 論文

「E. R. A. セリグマンは財政社会学者か？」『商経論叢』第51巻第3号、2016年 2 月、169 - 189頁

佐藤 孝治（サトウ コウジ）

1 著書・論文

「大規模災害と犠牲者への対応：首都圏斎場の能力と課題（下）」『自治研神奈川月報』第160号、1 - 10頁、2016年 8 月

「最大規模のリスク評価を受けた高知県黒潮町の自治体経営手法—『震災前過疎』対策としての黒潮町缶詰製作所と市場戦略」（友永公生氏との共著）『地域安全学会梗概集』No. 38、地域安全学会、59 - 62頁、2016年 5 月

「大規模災害と犠牲者への対応：首都圏斎場の能力と課題（中）」『自治研神奈川月報』第158号、1 - 9 頁、2016年 4 月

『臨海部コンビナート施設の地震リスクマネジメント』（共著）、早稲田大学東京安全研究所、2016年3月

2 講演・学会報告等

「熊本 連鎖地震からの警告：首都圏に迫るリスク」連合神奈川・神奈川県公務労協主催講演会、（横浜市技能文化会館、横浜市中区）、2016年11月25日

「熊本地震調査報告会『熊本地震・連鎖の衝撃－地域社会・市民生活への影響は』」（講師：熊本日日新聞社論説委員・毛利聖一氏、神奈川大学大規模災害対策研究プロジェクト主催、企画・司会担当）、（神奈川大学横浜キャンパス）、2016年10月26日

「東日本大震災から5年：被災地復興の現状と課題」神奈川大学特別講演会『被災地復興の現状と課題－津波被災地から考える21世紀の大学像』（神奈川大学大規模災害対策研究プロジェクト）（神奈川大学横浜キャンパス）、2016年6月18日

「最大規模のリスク評価を受けた高知県黒潮町の自治体経営手法」第38回地域安全学会研究発表会（春季）（高知県立県民文化ホール、高知県高知市）、2016年6月3日

「格差社会の若者たち－大学で学ぶことの大切さを考える」川崎市立川崎高校出張授業（川崎市川崎区）、2016年5月20日

「格差社会と若者の現状－大学で学ぶことの大切さを考える」神奈川県立横浜桜陽高校特別講義（神奈川大学横浜キャンパス）、2016年4月26日

Five Years after the Great East Japan Earthquake：Implications for the Society」カリフォルニア大学交通問題研究所（デービス校）、2016年3月3日

3 その他

「一面広がる土の山、防潮堤が景色を遮断、別の町に」『大分合同新聞』、2016年2月21日朝刊

佐藤 睦朗（サトウ ムツオ）

1 論文

「18～20世紀スウェーデンにおける世襲農場の成立過程」加藤彰彦・戸石七生・林研三（編）『家と共同性（家族研究の最前線①）』日本経済評論社、2016年9月、303－323頁

「18－19世紀スウェーデンにおける家産継承と親族」『比較家族史研究』第30号、2016年3月、107－122頁

2 学会報告

「スウェーデン農村史研究史料の電子化－史料のインターネット公開の背景とその影響－」バルト＝スカンディナヴィア研究会3月例会（早稲田大学）、2016年3月12日

品川 俊介（シナガワ シュンスケ）

1 研究論文

“R&D-based Growth Model with Nominal Wage Stickiness,” *Theoretical Economics Letters* Vol.6, No.5, pp.854–867, 2016(Sep.).(with Tomohiro Inoue)

“Equilibrium Determinacy in a Continuous Time New Keynesian Model with Monetary and Fiscal Policy Lags,” *Journal of Economy and its applications* Vol.6, Issue1, pp.1–27, 2016(Dec.).(with Eiji Tsuzuki and Tomohiro Inoue)

“Numerical Analysis of Three Time Delays in Monetary Policy : The Case of a Sticky-Price Model” IERCU Discussion Paper No.261, Chuo University, pp.1–27, 2016(Mar.).(with Eiji Tsuzuki and Futoshi Kurokawa)

2 学会報告

“Dynamic Analysis of Fiscal Policy Lag in the New Keynesian Model with Exogenous Growth,” 日本経済学会2016年度秋季大会、2016年9月、早稲田大学

清水 俊裕（シミズ トシヒロ）

1 論文

“Heterogeneity of expectations and financial crises : a stochastic dynamic approach”, *Journal of Economic Interaction and Coordination*, 2016, 10.1007/s11403-016-0175-y (Online First)

玉井 義浩（タマイ ヨシヒロ）

1 学会報告

“Optimal Financial Contract and Knightian Uncertainty” 日本応用経済学会2016年度秋季大会、会場：慶應義塾大学（東京）2016年11月26日

“Aging and Property Prices : Theory in the Very Long Run and Prediction on Japanese 892 Municipalities”(共著者：西村清彦・清水千弘) 2016 Asian Economic Panel (AEP) An Economic Forum Dedicated to Formulating the Best Practical Solutions 2016年8月23日会場：慶應義塾大学（東京）

“Investment for Productivity Improvement and Knightian Uncertainty” 12th Annual Conference of the Asia-Pacific Economic Association, 会場：International Management Institute Kolkata（インド・コルカタ市）2016年7月15日

戸田 龍介（トダ リュウスケ）

1 博士論文

「日本における農業簿記の研究—農業税務簿記、農業統計調査、農協簿記の3つの流れを中心に—」
（九州大学博士（経済学）、主査大石桂一教授、副査大下丈平教授・小津雅加子准教授）

2 論文

「京大式農家経済簿記の再検討—農林省農家経済調査との近似性に注目して—」『會計』、第190巻第3号、2016年9月、54-68頁（単著）

「日本における農業簿記の研究（12）—岩井克人氏による資本主義類型論を手掛かりとして—」『商経論叢』、第51巻第4号、2016年7月、133-151頁（単著）

「日本における農業簿記の研究（11）—農業統計調査、農協簿記についてのヒアリング調査—」『商経論叢』、第51巻第2号、2016年1月、107-117頁（単著）

「日本における農業簿記の研究（10）—農業税務簿記についてのヒアリング調査—」『商経論叢』、第51巻第2号、2016年1月、93-105頁（単著）

3 学会報告

「日本における農業簿記の史的展開—京大式農家経済簿記の再検討を中心に—」日本会計史学会第35回全国大会・自由論題報告、北海学園大学7号館3階D31教室、2016年9月5日、単独

「日本における農業簿記の研究—そこから得られる簿記学への知見—」日本簿記学会第32回全国大会・統一論題報告（統一論題：「複式簿記の適用領域の拡大—その機能と課題」）、大阪経済大学A館70周年記念館フレアホール、8月20日報告、8月21日討論、報告は単独、討論は統一論題のため報告者全員で

4 講演・特別講義・司会

記念講演論題：「日本における農業簿記の研究—農業税務簿記、農業統計調査、農協簿記の3つの流れを中心に—」（横浜市神奈川区六角橋、神奈川大学会計人宮陵会主催、神奈川大学横浜キャンパス1号館308会議室）、2016年7月5日

静岡県立大学経営情報学部特別講義「日本における農業簿記の研究」（清水市、静岡県立大学谷田キャンパス1階4111講義室）、2016年1月14日

学会司会（中小企業会計学会第4回全国大会、東北工業大学1号館3階131教室、第1会場・仲尾次洋子報告に対して）、2016年9月7日

5 その他（研究会報告、外部資金獲得状況等）

研究会発表論題「日本における農業簿記の研究—京大式農家経済簿記の再検討—」（九州会計研究会、九州大学経済学部2F中会議室）、2016年12月10日

研究会発表論題：「IAS第41号『農業』に見る全面公正価値会計について」（夏季・科研費研究会（代表：松本敏史早稲田大学教授）、九州大学経済学部2F中会議室）、2016年9月17日

研究会発表論題：「日本における農業簿記の史的展開—京大式農家経済簿記の再検討を中心に—」（会計学サマーセミナー in 九州、鹿児島県立短期大学2号館9番教室）、2016年8月16日

研究会発表論題：「日本における農業簿記の研究—そこから得られる簿記学への知見—」（寫村会計学研究会・青山会計研究会合同研究会、立教大学池袋キャンパス 7 号館 2 階7201教室）、2016年 7 月23日、同日午前中に会計史勉強会においても研究会報告

研究会発表論題：「日本における農業簿記の研究—そこから得られる簿記学への知見—」（神奈川大学会計学研究会、神奈川大学 1 号館502室）、2016年 7 月 6 日

研究会発表論題：「京大式農業簿記の再検討—簿記（学）と統計（学）の相克—」（寫村会計学研究会、明治大学14号館 6 階会議室）、2016年 5 月28日

研究会発表論題：「日本における農業簿記の史的展開」（会計史勉強会、喫茶ルノアール新宿 3 丁目ビッグスビル店 3 号室）、2016年 4 月23日

研究会発表論題：「複式簿記の適用領域拡大の議論をめぐって—日本における農業簿記の研究による知見から—」（九州会計研究会、九州大学経済学部 5 F510A 演習室）、2016年 4 月 9 日

研究会発表論題：「IAS41『農業』から見る IASB 概念フレームワークの基本姿勢」（国際会計研究学会スタディー・グループ岩崎部会、神奈川大学横浜キャンパス 1 号館502号室）、2016年 3 月29 日

研究会発表論題：「複式簿記の適用領域拡大の議論をめぐって—農業簿記研究の知見から—」（青山会計研究会、横浜国立大学みなとみらいキャンパス横浜ランドマークタワー18階1809）、2016年 3 月19日

最終報告書分担執筆：「概念フレームワークにおける測定属性—IAS 第41号『農業』との関係を中心に—」（国際会計研究学会スタディー・グループ岩崎部会「IFRS の概念フレームワークについて」、最終報告共著、最終報告は2016年 8 月27日に関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス B 号館 1 階101教室で行われた）

外部資金獲得：平成26～28年度・科学研究費補助金・基盤研究（C）、課題番号26380626、課題名「日本の農林漁業の発展に向けた簿記会計の役割 —オランダ・ドイツの事例を参考に—」

鳴瀬 成洋（ナルセ シゲヒロ）

1 論文

「比較生産費説とマルクス派貿易論—中川信義氏の国際価値論研究に寄せて—」『商経論叢』第51巻 第 4 号、2016年 7 月、47-70ページ

2 学会報告

「ブレトン・ウッズ体制下の『埋め込まれた自由主義』をめぐって」ケインズ学会第 6 回年次大会（国士舘大学世田谷校舎）2016年12月 4 日

3 研究会報告

「Embedded Liberalism をめぐって—エリック・ヘライナー『国家とグローバル金融』によせて—」グローバル政治経済学研究会／東京新世界経済研究会（立教大学池袋キャンパス）2016年 3 月 5 日

西村 陽一郎（ニシムラ ヨウイチロウ）

1 論文

西村陽一郎「知的財産の側面から見たタイ現地日本法人の現状と課題：ヒアリング結果からの示唆」『青山経営論集』第51巻第3号、pp.113-124、2016年12月、青山学院大学

西村陽一郎・長岡貞男「TPPと特許制度：グレース・ピリオドに焦点を合わせて（特集 TPPとこれからのわが国の産業）」『統計』Vol.67（5）、pp.22-27、2016-05、日本統計協会

西村陽一郎「企業パフォーマンスとライセンスとの関係性に関する調査」『平成27年度我が国の知的財産制度が経済に果たす役割に関する調査報告書』、pp.49-88、2016年3月、一般財団法人知的財産研究所

大西宏一郎・西村陽一郎「オープン・クローズ戦略と特許化・特許利用行動との関係」『平成27年度我が国の知的財産制度が経済に果たす役割に関する調査報告書』、pp.170-198、2016年3月、一般財団法人知的財産研究所

大西宏一郎・西村陽一郎「知的財産活動調査の調査項目についての整理に関する検討」『平成27年度我が国の知的財産制度が経済に果たす役割に関する調査報告書』、pp.199-231、2016年3月、一般財団法人知的財産研究所

2 学会報告

Nishimura, Yoichiro, and Liu, Rebecca, “What Deters Foreign Divestment? A Time-series Study of Japanese Parent Firms”, SMS Special Conference in Hong Kong, 2016年12月12日, CUHK Business School, The Chinese University of Hong Kong.

西村陽一郎・大西宏一郎・山内勇, “Patent, Secrecy and Firm Performance: Evidence from Japan” 研究・イノベーション学会第31回年次学術大会、2016年11月6日、青山学院大学

Nishimura, Yoichiro, Suzuki, Katsushi, Nakauchi, Motohiro, “Strategic Change After Succession: The Impact of Social Ties Between Prior President and New President”, the 36th SMS Annual International Conference in Berlin, 2016年9月19日, InterContinental Berlin.

西村陽一郎・鈴木健嗣・中内基博「社長交代後の戦略変更とソーシャル・タイ」日本経営学会第90回大会、2016年9月3日、専修大学神田キャンパス

Onishi, Koichiro, Nishimura, Yoichiro, Yamauchi, Isamu, “Patent, Secrecy and Firm Performance: Implication For Open And Closed Strategy”, INFORMS International Meeting 2016, 2016年6月14日, Hilton Waikoloa Village, Waikoloa Village, Hawaii.

西村陽一郎・鈴木健嗣・中内基博「社長交代後の戦略変更とソーシャル・タイ」日本経営学会関東部会2016年4月23日、早稲田大学早稲田キャンパス

3 その他

研究・イノベーション学会第31回年次学術大会「一般講演技術経営（戦略・R&D マネジメント）③」セッション座長、2016年11月6日、青山学院大学

藤井 誠（フジイ マコト）

1 学会発表

藤井誠・関隆教「サービス組織の現場従業員におけるクリエイティビティと顧客への成果の関係に関する理論的課題の検討」日本マーケティング学会マーケティングカンファレンス2016ポスターセッション、早稲田大学、2016年10月16日

三島 斉紀（ミシマ ムネノリ）

1 論文

「R.F.ベネディクトの「シナジー」概念について」（単著）甲南大学経営学会『甲南経営研究』第57巻第1号、2016年11月、71-86頁

「今日の所謂「自己実現」社会に関する一考察－マズロー「自己実現」社会概念との比較において－」（単著）神奈川大学経済学会『商経論叢』第51巻第4号、2016年7月、71-83頁

2 学会・研究会報告

「著作 *Maslow on Management* の留意点について」東北心理学会第70回大会（福島大学）、2016年10月

「Maslow の Blackfoot 調査について－「基本的欲求」と「シナジー」の概念的基礎－」、2016日本語教育与日本学研究国際研討会（上海・同济大学）、2016年5月

Munenori MISHIMA et al., “On the Problems of Vocational Education in Japan”, *The 8th Korea and Japan Business Research Seminar*, South Korea, Myongji University, March, 2016.

3 その他

「Maslow の Blackfoot 調査について－「基本的欲求」と「シナジー」の概念的基礎－」（単著）『2016日本語教育与日本学研究国際研討会予稿集』、2016年5月、75-76頁

「A. H. マズローの著書 *Motivation and Personality* について」（単著）『九州心理学会第76回大会発表論文集』、2016年2月、2頁

「「自己実現する」ということ」（単著）『大学で何を学ぶか－学問への誘い』、2016年1月、185-189頁

森田 圭亮（モリタ ケイスケ）

1 学会報告

Tax Shelter and Tax Administration, The SIBR 2016 Hong Kong Conference (Hong Kong), September 2016.

山口 拓美 (ヤマグチ タクミ)

1 寄稿論文

「マルクスの Gattung 概念について」福島大学経済学会『商学論集』第84巻第4号、2016年3月、183-194ページ

2 研究ノート

「類的存在論の一側面について」神奈川大学経済学会『商経論叢』第51巻第4号、2016年7月、153-168ページ

山本 通 (ヤマモト トオル)

1 論文

「イギリス産業革命期の『規律』と宗教」『経済貿易研究 研究所年報』第42号、2016年3月、17-31頁

2 その他

「よき便りから (2)」『一橋大学基督教青年会年報』第66号、9-16頁

山本 崇雄 (ヤマモト タカオ)

1 学会報告

“Explorative Activities and Management of Dual Embeddedness in Foreign Subsidiary : On a Case Study of Japanese General Trading Companies,” Association of Japanese Business Studies 2016 conference, New Orleans, USA, Jun.26, 2016 (with Y.Kuwana).

「アジアにおける消費者金融ビジネスモデルの研究」、パーソナルファイナンス学会第17回全国大会、2016年11月13日、桜美林大学（共同報告：竹之内秀行、佐藤幸志）

2 研究助成

「日系海外子会社の探索型活動と二重の埋め込みのマネジメント—組織・人材の観点から—」、科学研究費補助金、基盤研究 (C) (2016~18年度)、課題番号：16K03906

3 その他 (エッセイ)

「多国籍企業における双面性 (ambidexterity) のマネジメントの方向性 (1)」、世界経済評論 IM-PACT、2016年11月21日

「日本企業の新興国事業とのつきあい方」、世界経済評論 IMPACT、2016年3月7日

山本 博史（ヤマモト ヒロシ）

1 論文

「タクシン政権とタイにおける民主主義」『商経論叢』第51巻第4号、2016年7月、神奈川大学経済学会

共編著「政治経済学からみた中国とASEAN関係」『新・アジア経済論』、文眞堂、2016年2月、148－166頁

共著「タイ経済—経済発展と民主化」『ASEAN 経済新時代と日本』トラン・ヴァン・トゥ編著、文眞堂、2016年2月、104－128頁

2 研究報告

「東南アジアから西アジアにおける民主化と経済発展」研究会『タイにおける民主主義』場所：神奈川大学アジア研究センター、2016年11月12日

3 一般向けの研究報告

神奈川大学アジア研究センター主催講座「ASEAN の今と日本」『微笑みの国タイの苦悩—経済発展のかけで踏みにじられる民主主義』みなとみらい KU ポートスクエア、2016年6月4日

横川 和穂（ヨコガワ カズホ）

1 論文

「ロシアにおける公共サービスの供給と地方財政—教育を中心に—」神奈川大学経済学会『商経論叢』第51巻第4号、2016年7月、107－131ページ

2 研究会報告

「体制転換後のロシアにおける教育と地方財政」比較経済体制研究会第33回年次大会、於：京都大学経済研究所、2016年9月7日

3 学会報告討論者など

Olga Kupets (Kiev-Mohyla Academy University, Ukraine) 報告”Occupational shifts and educational mismatch in a transition economy : Evidence from Ukraine”へのコメント、比較経済体制研究会第33回年次大会（於：京都大学経済研究所）、2016年9月7日

藤原克美（大阪大学）報告「グローバリゼーション下のロシア企業戦略：アパレル産業を事例として」討論者、比較経済体制学会第56回全国大会（於：弘前大学）共通論題「国民経済とグローバル化する産業発展：比較経済学のアプローチ」、2016年6月5日